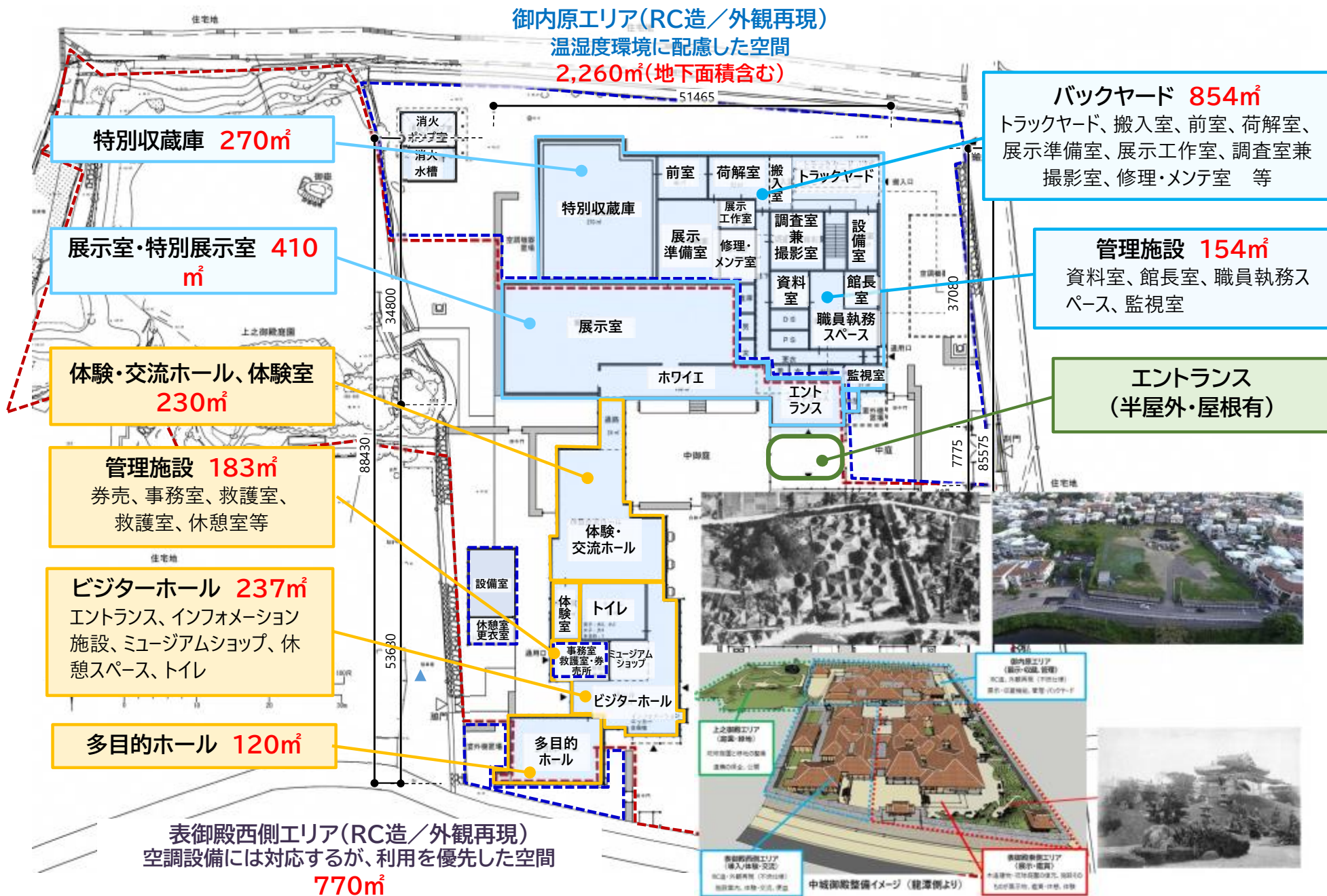


# 基本施策6. 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進 (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 中城御殿跡地整備 実施設計



# 基本施策6. 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進 (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出 首里杜まちづくり推進協議会 (令和4年9月設立) の概要



## 令和5年度テーマ活動状況



## 令和5年度の活動概要

- ①各主体が進める事業の内容確認／進捗確認
- ②部会におけるテーマ別活動の推進
- ③首里杜地区のまちづくりや協議会に関する情報発信



## 事務局体制

地域事務局を首里杜まちづくり団体連絡協議会、市事務局を那覇市都市計画課、県事務局を沖縄県首里城復興課に設置し、協議会の調整やとりまとめを行う。

構成員分類	構成員	
(1) 地域	地域住民・団体 など	首里杜地区まちづくり団体連絡協議会
(2) 事業者	地域に所在する観光・商工・交通に関連する事業者、NPO、社団法人 など	首里染織館suikara
	バス・タクシーなど公共交通関連事業、観光DXなど関連テーマを推進する団体・事業者 など	S C S K株式会社
(3) 学術機関、専門家、団体	地区や取り組みに関連する学術機関や専門家グループなど	国立大学法人 琉球大学
(4) 行政	国、県、市	那覇市
		沖縄県
		国 (沖縄総合事務局)
(5) その他 必要な構成員	首里城公園管理者 など	一般財団法人 沖縄美ら島財団

### ➤ テーマ活動①：ニシカタ地区まちなみづくり検討



**目的：**首里杜地域固有の風土や文化など、歴史的景観に調和した景観形成を図るため、都市景観形成地域（重点地区）の拡充を見据えた取組みを進める。

**年度成果設定：**景観に関する住民意識やその課題について整理し、地域と行政で価値観や課題を共有する。

**活動概要：**ニシカタ地区対象範囲の居住者へアンケート調査を実施し現時点での景観に関する意識等の基礎データを整理する。アンケート調査結果報告と、ゆんたく会を実施し、調査結果による現状把握、意見交換による新たな発見や、課題の共有を図る。

### ➤ テーマ活動②：地域資源案内検討



**目的：**首里杜地区における案内板やサインのグランドデザインを策定し、調和がとれた機能的なサインにより、来訪者や地域の子供たちが首里をよりよく知ることのできる環境をつくる。

**年度成果設定：**案内板やサインの設置対象候補を整理し、設置に向けて各主体へ共有、提言する。(仮)。

**活動概要：**首里エリア全体の案内板やサインの改善、整備に向け、対象箇所や表示内容を検討する。検討作業中の首里城公園内案内サイン基本計画を参考にするため確認する。過年度の地域資源調査も踏まえ、点在する地域資源等の案内や誘導を踏まえた、生活エリアと観光エリアのゾーニングや、望ましい周遊のあり方についても検討する。

### ➤ テーマ活動③：地区交通の検討 (観光交通コントロール/地区ゾーニング)



**目的：**首里城周辺における交通混雑等の状況を踏まえ、地域住民及び観光客の安全性の確保、利便性向上等の観点から、首里杜地区全体におけるよりよい交通環境を創出するための施策について検討する。公共交通の促進に資するため、持続可能な公共交通のあり方についてとりまとめる。

**年度成果設定：**首里杜地区における交通課題を抽出し、課題解決に向けた対応策等について各主体へ共有・提言する。(仮)

**活動概要：**県で実施中の交通関連調査検討内容を共有。バス予約システムの効果や課題の注視(定期的に共有)・その他観光交通をコントロールする手段や対応策、公共交通のあり方をWS形式で検討する。

### ➤ テーマ活動④：龍潭周辺の全体利用計画検討



**目的：**龍潭一帯が、歴史的な空間であるとともに地域の暮らしや生活環境に溶け込んだ場となるような整備と利用をめざす。

**年度成果設定：**龍潭周辺全体の利用計画(案)をとりまとめ、整備や管理や利用にかかる各主体へ共有・提言する。(仮)

**活動概要：**現状や課題を確認する(現地調査/管理者ヒアリングによる管理上の問題点、利用者ニーズの確認)・公園整備計画・関連整備事業の確認・望ましい整備・利用のありかたのまとめ・その実現に向けた活動計画の作成

## 第32軍司令部壕保存・公開事業

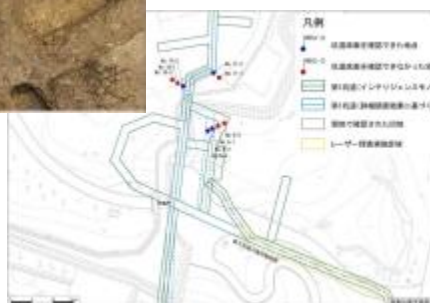
沖縄戦の軍事的中枢施設であった第32軍司令部壕は、沖縄戦の実相を次世代に語り伝えるために極めて重要な歴史的戦跡であることから、同壕の保存・公開に向けて必要な詳細調査や平和発信・継承の取組を行った。

### 1. 詳細調査の実施

○壕の中心部付近の位置や内部の状態、第1坑口の正確な位置の特定、第5坑口のトロッコのレールの発見等、当時の状況が確認できた。



第5坑口試掘調査掘削面写真



### 2. パンフレットや子ども向けクイズコンテンツの作成

○「資料等編さんワーキンググループ」の設置によるパンフレットや子ども向けクイズコンテンツを作成し、周知啓発への取組を進めることができた。



#### 上級編 第1問(解説1)

Q1: 米軍が沖縄島で最初に上陸したのはどこでしょうか?



#### ① 読谷(よみたん)

米軍は1945年4月1日に、現在の中級郷読谷村に上陸しました。上陸後の米軍は飛行場を占拠し、わずか3日で沖縄島東海岸に達すると、島を南北に分断しました。米軍は主力を南部へ、それ以外を北部に向かわせました。

### 3. フィールドワーク・シンポジウムの実施

○平和ガイド等によるフィールドワーク等の実施により、壕に対する地域住民の理解を深め、参加者から第1、第5坑口の保存、公開等に向けた意見を聴取できた。



# (1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識

所管課:文化観光スポーツ部 文化振興課

県は、先人達が創り上げてきた沖縄の歴史と文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成に取り組むとともに、新たな歴史と文化を県民自らの手で創造することを図るため、「琉球歴史文化の日条例」を制定し、11月1日を琉球歴史文化の日とした。琉球歴史文化の日とその趣旨について普及・啓発するための広報活動と、県民が沖縄の歴史と文化への理解を深めるための関連事業を実施した。



## 1. 関連事業

○「沖縄の歴史（琉球王国時代の外交）」をテーマにした図画コンテストを実施した

一般の部 最優秀賞

いのちの音色がドドンッ!



## 2. 周知・啓発

○新聞や放送等のメディアを活用し、琉球歴史文化の日とその趣旨について普及啓発した。



## 3. 記念イベント

○琉球歴史文化の日（11/1）にその趣旨についての普及・啓発するための記念イベントを実施した。



### (3) 県民等の継続的な参加による復興（ナンバープレート導入）

県では、「地方版図柄入りナンバープレート」の制度を活用し、首里城復興への願いを込めて、「首里城」を取り入れたデザインの自動車ナンバープレートの普及促進を図っている。令和5年10月から交付がスタートし、令和6年3月時点で6,272枚が発行された。

首里城図柄入り  
自動車ナンバープレートデザイン  
最優秀賞



沖縄のナンバープレートにもなるので、沖縄を象徴するシーサーと首里城のイラストを用いました。左下には、首里城のある那覇市の花ブーゲンビリアを入れてあります。遠くからでも首里城の全体像が把握でき、ナンバーの視認性は損なわないように工夫しています。



※発行手数料に加え、1,000円以上の寄付をしていただきますと、フルカラー版の図柄入りナンバープレートが選択できます。

令和5年9月25日  
首里城ナンバープレート  
事前受付開始にかかる  
記者会見を実施



首里城図柄入り  
ナンバープレート交付記念  
令和5年10月23日交付スタート



令和5年10月23日  
首里城ナンバープレート  
交付記念イベントを実施

# (3) 県民等の継続的な参加による復興（首里城火災破損瓦等の活用）

首里城火災で焼け残った瓦や石材を首里城の思い出として活用したいとの声を受け、首里城への「思い」を多くの人が共有し、形として残していくことを目的に、破損瓦等活用事業を実施。活用希望者に破損瓦等を配布し、様々なイベントや活動に活用されている。



## 首里城破損瓦・石材利活用コンクール開催

令和5年9月～令和6年2月にかけて、沖縄県内の教育機関等を対象に、破損瓦・石材を活用したコンクールを実施したところ、沖縄県立那覇西高等学校が最優秀賞に選ばれた。



# (1) 国内外の学術ネットワークとの連携（シンポジウム開催）



事前申し込み制・参加費無料

令和5年  
**日 10月29日[日]** 13:00 ▶ 17:10  
 時 (12:30開場)  
**会 沖縄県立博物館・美術館**  
 場 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号  
**定 100名** (申込み先着順)



＼ 歴史文化・サイエンス・教育・まちづくりなど、首里城に関連した多様な研究や取組を共有します。 ／

13:00	開会の挨拶 (沖縄県立芸術大学長 波多野 泉 氏)	
13:05	第一部 基調講演 高良 倉吉 氏 「首里城復興の現在地と今後の展開」	
14:00	第二部 口頭発表 (3題)	「首里城正殿の復元と首里城公園の多様な活用に向けて」 「首里城正殿二階の御書庫について」 「首里城正殿再建に使用する県産木材の基準強度評価プロジェクト」
15:05	第三部 ポスターセッション (16題)	
16:10	第四部 パネルディスカッション	「復興の現在地と今後の展開と学術ネットワークの役割」
17:05	閉会の挨拶 (琉球大学長 西田 聡 氏)	

協力：一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄、SCSJK株式会社、NPO法人首里まちづくり研究会  
 後援：内閣府沖縄総合事務局、那覇市、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー  
 問い合わせ先：琉球大学 総合企画戦略部 地域連携推進課  
 Mail: chikikaku@ocu-ryukyusu.jp  
 ※フォーラム概要及び当日のお問い合わせは対応いたしかねますのでご了承ください。 詳しくは  で 検索

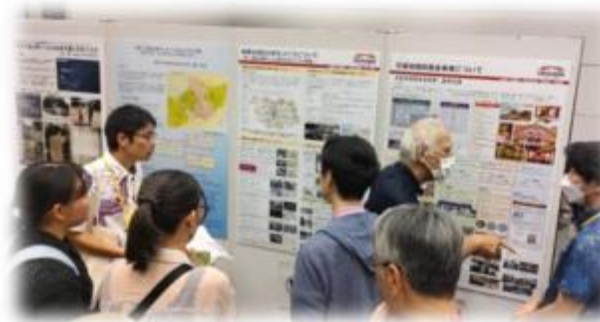
県、琉球大学、県立芸術大学の三者共催により、行政、芸術、人材育成、学術の面から首里城復興と沖縄の歴史文化復興に関するシンポジウムを開催。

【日時】 令和5年10月29日(日)

【会場】 沖縄県立博物館・美術館  
 (シンポジウムの様子を琉球大学地域連携推進機構 YouTubeチャンネルにてアーカイブ配信)



口頭発表



ポスターセッション